

「いらっしゃいませ、ドーナツ屋さんですよ！」(3年保育5歳児 10月下旬)

2学期に入ってから、ドーナツや帽子を作り、ドーナツ屋さんごっこを楽しむ様子が見られた。ドーナツを置くショーケースを幼児と作ったことから、より、ドーナツ屋さんのイメージがもて、自らお客さんを呼んで接客したり、ドーナツを作ったりする姿が見られるようになっていった。

思考力・判断力・表現力等の基礎

- 見たことのあるお店をイメージをし、2段にしてドーナツを置けば、もっとドーナツ屋さんに見えるかもしれないと考え、段ボールで作る(試行錯誤)(工夫)

【教師の援助】

ドーナツ屋さんを楽しんでいたが、長く気持ちが継続しなかったため、よりイメージをもって楽しめるように、子供と実際のドーナツ屋さんを想像しながらドーナツの置き場を考えた。



できたらお客さんも呼ぼうよ！食べる場所も用意しないとね

学びに向かう力、人間性等

- ドーナツ屋さんを開くためには、ドーナツを置く場所、食べる場所、お会計の場所等があることを友達同士で話し合い、分担して作ろうとする(目的の共有)

学びに向かう力、人間性等

- 「どれにしますか？」と年中組の子どもたちに優しく問いかけたり、年中児の思いに答えてあげようとしていたりする(思いやり)



どのドーナツにしますか？

知識及び技能の基礎

- 段ボールを折り曲げると、跳ね返って上手く棚みたいにはできないため、近くにあったペットボトルを見て「ちょうど良い大きさ！」と気づき、支えにしようとする(様々な気づき)(発見の喜び)

思考力・判断力・表現力等の基礎

- 昨日たくさんドーナツが売れたことから、「すぐに売り切れるからいっぱい作っておかないと！」と次の日朝からドーナツを作り始める(予測)(次への見通し)
- 秋の季節限定のドーナツを作ろうと考え、コウモリドーナツを作ったり、知っているポンデリングを作ったりする(自分なりの表現)

【教師の援助】

ドーナツの味のイメージが広がるように、ドーナツに関する絵本を用意した。また、ドーナツ作りに使えるような梱包材や布、毛糸、モールなどを用意しておいた。



思考力・判断力・表現力等の基礎

- 「今日のおすすめです」と伝える等、どのように接客したら、自分たちが作ったものを買ってもらえるか、売り文句を考えようとする(試行錯誤)(工夫)

○ドーナツ屋さんの棚を作ったことで、みんなの知っているドーナツ屋さんの雰囲気生まれ、ドーナツ屋さんを楽しむ幼児が増えた。また、ドーナツを並べられるようにしたことで、レイアウトもきれいに見え、より魅力的に見えた。

○年中組のみんながお客さんで来てくれたことで、より店員さんとして振る舞う楽しさや、もっとドーナツを作りたい、よりドーナツ屋さんらしくしたい、という気持ちを感じることができた。

★このように、子供たちが、本物のお店のイメージを実現できるような段ボールや空き箱、空間を用意しておくことが大事である。また、お店屋さんでは、クラスを超えた関わりも大事にし、もてなす喜びや嬉しさをより感じられるようにすることが大事である。